

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101117		
法人名	株式会社 二幸		
事業所名	グループホームひまわりⅡ		
所在地	札幌市中央区南29条西10丁目7番1号		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan_i=true&amp;JigyosyoCd=0170101117-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan_i=true&amp;JigyosyoCd=0170101117-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年9月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この場所にひまわりⅡが出来て14年ですが、地域の方にも認識されて普通に挨拶をして近所の方に「最近見ないけどどうしたの?」などと話をしたり、「毎日暑いのにコロナでマスクをして働くて大変だね」などと気遣って下さったりと普通に毎日を過ごさせて頂いています。

昨年亡くなった近所の方には、一緒に住んでいるお姉さんに「ひまわりの人達は本当に良い人だよ」と、いつも話していたと聞いて本当に嬉しく思いました。

コロナの影響で最近はなかなか外出や話をする事も少なくなりましたが入居者の方がコロナに罹らないようにと、職員に出来る事を毎日していきましょと日々過ごしてきました。これからも地域の方と協力医療の方などと協力して1日1日を明るく楽しく過ごせるよう努めていこうと思います。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひまわりⅡ」は、石山通りやバス停にも至近の住宅街に在り、家族や関係者が来訪しやすい立地である。地域とはごく自然体で交流し、互いに安否を気遣い合う友好関係を築いている。3階層の戸建て住宅で、家庭的な雰囲気や環境に、1ユニット9名が入居している。開設後16年が経ち、利用者の高齢化、重度化に対応し、ケアの中心は身体介助の様相であるが、系列事業所の利用者とのふれあいや、少人数でのドライブ、季節行事などで気分転換を図っている。利用者の楽しみと健康を支える食を重視し、栄養バランス良く、旬の食材や果物、祝い膳や出前なども取り入れ、美味しいと利用者に好評である。また、生活動作中での機能維持や自立支援に努めており、無理なくトイレへの意思表示ができるような言葉掛けや、食事その時の身体状況や気分に応じて、負担なく自発的に作業に参加にできるよう、その見極めと働きかけを行うなど、細やかな配慮を実践している。医療面では、協力病院と密に連携し、他の専門科も含めて代表者が付き添い、早期の適切な受診支援に取り組んでいる。コロナ禍の現状では、感染症対策を取りつつ過度な不安に陥らないよう、職員の明るく親身なケアで、日々できることを積み重ねている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひまわりⅡ独自の理念と会社の理念を作り玄関に掲げている	法人理念のほか、事業所独自の理念を策定し、1階玄関フロアに掲示している。代表者と職員は、理念の目指す方向性を基本に、利用者に関わる全ての環境が適度であるよう、その時々話し合い、日々サービスの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、災害時での一時避難場所として提供して下さると申し出があったり又気軽に挨拶をするなど、地域の一員として日常的に交流している	近隣住民とは、自然体での付き合いが交わされている。挨拶や会話の中から、町内の情報交換や認知症介護に関する困りごとなどが寄せられ、地域にとって一番目の窓口的機能を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方やグループホームについて電話等相談された時色々な話の中で、分かる事はアドバイスをしたりなど地域の人々に向けて活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し会議の中で活動状況や身体的拘束等適正委員会で身体拘束と高齢者虐待の事について話し合ったりとサービスの向上に活かしている	運営推進会議は、地域代表や包括支援センター職員等の参加により、定期的開催している。利用者の状況や活動面、防災等を報告し、より身近な事業所として理解を図り、意見等を利用者サービスの向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者の方いるので中央区の生活保護担当者との連絡をとったり市の開催する会議に出席する等協力関係を築く様取り組んでいる	行政職員とは随時連絡を取り合い、介護保険に関する運用や生活保護関係で連携し、また、ケースワーカーの来訪調整を行っている。コロナ禍により行政主催の会議等の自粛では、事業所が孤立しないよう同業者との連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本しない事を契約時に説明をしているし、運営推進会議中の身体的拘束等適正委員会やホームの会議で情報を共有して学び身体拘束をしないで対応出来る様に話し合い 統一したケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しており、運営推進会議で適正化について報告している。不適切ケア等の事例に照らし合わせ、委員会や勉強会で実際のケアを確認している。家族には暮らしの中でのリスクを説明し、同意を得てセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まず研修を受ける、その後運営推進会議で身体的拘束等適正委員会として話し合い又ホーム内での会議で研修の内容を伝えたりと色々学ぶ機会を持ち虐待がないように注意を払い防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1人の入居者の方が成年後見制度を利用しているが、その関係者の方や区役所の方に分からない事を聞きその他の方も必要ある方はそれらを活用出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かい事を説明して、不安や疑問点等がなく理解納得を図りながら契約の締結等をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の事は電話で伝えたり来訪された時に伝えたりしてその都度家族の意見や要望を聞き又ポスター等で外部者へ表せる事を伝えながらそれらを運営に反映させている	利用者と家族とのコミュニケーションを重視し、意見や希望などが出された時には、検討して柔軟に対応している。コロナ禍により面会が自粛されているが、家族個々の状況を踏まえ連絡や報告を行い、不安が軽減されるように努めている。	通信の発行は、利用者や職員状況、コロナ禍により中断しているが、発行継続の意向を示しており、その取り組みを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は管理者兼現場職員として対応していて、日々の対応について職員の意見や提案を聞く様に努め、会議等で決めて職員が対応しやすい様に反映させている	長期勤務の職員が多く、OJTによる新人職員サポート体制も良好である。代表者も介護業務に入り、職員と日常的に意見交換を行っている。職員の意見等は、利用者の安心感のある暮らし作りや、職員のより働きやすい業務の運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日々の勤務の中でできる限り職員一人ひとりの希望や条件を聞き 整備に努めながら行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近ではコロナの影響で研修や会議等集まる事が無くなっているが、その前は研修に参加してもらい又ホーム内での会議で報告してもらったりと一人ひとりのスキルアップができる様に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近ではコロナの影響で他の同業者と交流する機会が無くなっているが、それでも電話で悩んでいる事や困っている事などを話し合っサービス質の向上させていくよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	見学の時本人に不安に思った事などを聞き説明をして本当に納得して頂いてから契約するようにしています そこからは本人が相談しやすいような関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の時家族が感じた事や不安に思った事などを聞き説明して納得して頂いたうえで契約するようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話で問い合わせが来たとき、色々話を聞き分かる事は説明をして本人と家族がまず何を必要としているのかを見極めグループホームだけではなく他のサービスも含めてアドバイスするよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員に伝えている事はグループホームの職員とは日々の入居者の方の生活の中で出来ない事をサポートする事で出来る事はして頂くか一緒に行うかして暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題がおきそうな時は家族に相談してその方向性を話し合うようにしています色々家族の方と相談しあいながら共に本人を支えていく関係を築いています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から馴染みの人や場所などの事を聞き今までも美容室やお墓参りなどその方との関係が途切れないよう支援に努めています	家族や親族以外に、利用者自らが親しい人との交流を求めることは無く、現在は職員が馴染みの存在となっている。利用者によっては、協力医療機関のデイケアを利用するなど、馴染みの場作りの働きかけを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中でトラブルになりそうな時や問題が起きそうな時座る席を変えたり対応の仕方を工夫したりして利用者同士が良い関係で毎日が送れるように支援に努めている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去した後でも出来ることは支援したりアドバイスをしたりと本人や家族のために力になってあげられるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議やモニタリング、アセスメントの時など本人の希望や意向の把握に努めています 困難な事も本人のためになるよう話し合いながら対応しています	利用者と共に過ごす中で、本人の気持ちを聞き取り、直ぐ実行できることは柔軟に対応している。暮らし方の希望などは、本人の言葉や家族からの情報、職員の気付きをもとに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方に合わせて、無理がないようなサービスを行いながら日々を送るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来ること、その日の気持ちでいたい時あまりしたくない時、どう一日を過ごしたいのか等その人その人に合わせて日々を生活されるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞き又対応している職員達の意見を聞き、モニタリングを基に話し合い本人の現状に即した介護計画を作成しています	介護計画は3か月の定期や状態の変化時に応じて見直している。利用者と家族の意向は関わりの中から聞き取り、モニタリングは担当職員が行い、アセスメントやカンファレンスを通してケアマネジャーが、個々の状況に即した計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3か月に1回のケアプランの見直しの時は職員で話し合っ介護計画の見直しに活かしているし、日々の対応の中で気づきや工夫などを話し合い、その方にあった対応をするよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前入居されていた方でお盆のお墓参りに連れていったり、又家族のいない方で入院、退去された方の支払いなどをホームで行ってあげたりと出来る限り取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保護課の方や民生委員の方包括の方などと話し合いながら一人ひとりに合わせた対応などをして安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最近ではコロナの影響で受診できないが、それでも協力医療機関に電話で状況を相談しながら本人や家族の希望に合った医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望の受診先に対応しており、協力医療機関への月1回の通院受診、看護師の週1回の訪問体制である。歯科や循環器、整形等の専門科外来も事業所で通院を支援している。コロナ禍では、病院と連携を深めながら、利用者の健康状況の安心に努力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年はコロナの影響で訪問看護の方に来ていただく日が少なくなったが、来ていただいた時は入居者一人ひとりの事で相談をして適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際検査等を行なった結果どのくらいの入院になるかを聞き又その後の状況も聞いて出来るだけ早期に退院できるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時看取りの説明をして同意を得ています。医師の往診はないので重度化や終末期には再度医師や家族本人と話し合っ方向性をだし全員でチームとなって支援に取り組んでいます	契約時に重度化や終末期のあり方について説明し、変化の兆しも逃さず、早い段階から家族と話し合っている。往診対応がない状況で、ケアの限界はあるが、協力医師と相談しながら口からの食事が継続しているときは、事業所のできる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の時や以前は研修の中で応急手当や心臓マッサージなどの訓練を定期的に行い実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回色々なことを想定して行っています。その他運営推進会議でも話し合われ地域の方とも協力体制を築くよう取り組んでいる	避難訓練は、年2回昼・夜を想定し、1回は消防署立合いで地震、火災時の訓練を行っている。運営推進会議を活用し、事後の評価を次回に活かす方針である。水・食料の備蓄や停電用ストーブなどを用意し、今後も防災備品等の充実を図る予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴などプライバシーを損ねやすいケアの時特に気を付けて声掛けをして人格を尊重するように対応につとめている	1ユニット9名のケアであり、一人ひとりへの細やかな気配りがされている。職員は、人格尊重の姿勢を共有し、何気ない言葉使いにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でその人に合わせて何がしたいのかなど思いや希望を表せるよう自己決定できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活流れを一人ひとりの希望に沿ってできるだけ支援するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや寝ぐせの整髪又その日の天気や気温にあった身だしなみをするように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど一緒に行っています。又美味しく食べて頂けるように一人ひとりに合わせて食事を作って提供しています	食事は利用者と一緒に作り、その時の気分や体調を見極めながら、自発性を大切にしている。好みや嚥下状況に配慮し、誕生日や季節行事に合わせた手作り料理、時には、うなぎや出前弁当の取り寄せもあり、食の満足を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの量や形体水分量などを職員で話し合ったりプランの見直しの時話している。色々な所で話し合いその人に合わせた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを職員がついて対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最初オムツでベッド上で対応していた方にも「トイレに行きたい時言ってください」と毎日声掛けし排泄のパターンを把握し今では声掛けもするが本人も「トイレに行きたい」言ってくれる様になり昼はリハパン対応で自立に向けた支援をしている	トイレでの排泄を基本にしている。入居時はベッド上の介助であった人も職員の働きかけで、トイレへの意思表示につながった人もいる。個別状況の変化に即した介助や衛生用品の工夫は、常に本人の負担や快適さを検討し、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合わせて運動への働きかけやあまり噛まない方には刻みで細かくしたりと排便の回数などの管理をしその方に応じて便秘などの予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて週2回くらい入浴できるよう支援している。又汗をかいたり排泄で汚れてしまった時はシャワー浴や清拭も取り入れて個々に沿った支援をしている	日中の時間帯で、個別に週2回程の入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者は無く、湯舟でゆっくり入浴したり、シャワー浴では十分温まれるようにし、それぞれの拘りや好む入浴スタイルに合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて夜寝れなくなる方はなるべく起きて頂いたり昼食後からおやつ前まで休んで頂くとかその方に合わせて気持ち良く眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の目的など理解しているので訪問看護の方に本人の状況を見て相談。その後先生に薬の変更など相談したりと服薬の支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのやりたいことをぬり絵や歌を歌うこと風船パレーやお手伝いをして下さることなど、その方に合わせてやりたいこと楽しみ事などを支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近コロナでなかなか外出出来ない状況ですがドライブなどで行きたい方だけでも希望に沿って出かけられるよう支援している	利用者の高齢化、重度化により、外出を誘っても断る人が多いが、協力医療機関への受診も外出の機会とし、また、臨機応変に少人数で周辺のドライブに行くなど、できる範囲で戸外に出ることを促している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの理解力により手元に1000円持っている方や一緒に買い物に出かけたりと本人の希望や力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族などに電話をして頂いたり支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間では誕生会の写真や季節に合った絵など貼って季節感を少しでも取り入れて居心地良く過ごせるように工夫している	建物の2、3階を居室と食堂、談話スペースに使用し、エレベーターや各階2カ所のトイレが設置され、窓からの明るい陽光の取り入れなど、コンパクトながら居心地よい住環境になっている。清掃面や温、湿度も適切に配慮し、行事写真や季節の装飾が施された家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で2階の椅子やソファで利用者同士で話されたり自由に居室に戻られ独りで休まれたりテレビを見たりと思い思いに過ごせるような工夫をしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込めるしもって来られない方はホームにあるものそのまま使って頂いたり自由に出来るようにしています。又思い出の写真など飾って本人が居心地よく過ごせるようにしています	居室には、使い慣れた物などを持参してもらい、持ち込みの少ない人は、事業所で生活しやすいように整えている。本人の心身の変化に合わせて家具等の角にクッション用品を付けたり、手すりを増設するなど、安全面に配慮し、安心できる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせて出来る方は声掛けで転倒の危険がある方は車いす対応でその方によって安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している		